

基盤教育の方針

学位授与方針

■ 知識・理解

- 人間と「自然・環境」「思想・文化」「地域社会」「国際社会」「歴史」との関係性の総合的な理解、環境問題に関する正しい知識など、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。【総合的知識・理解】

■ 技能

- 情報社会における情報及び情報システム、インターネットの特性を理解し、それらを活用する技能を身につけている。【情報活用能力】
- 自然現象や社会的事象に関する量的調査の基本的な考え方と分析技法を身につけている。【数量的スキル】
- 英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。^{※1}【英語力】
- スペイン語、中国語、朝鮮語、ドイツ語、フランス語、ロシア語のいずれかを用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。^{※2}【その他言語力】

■ 思考・判断・表現

- 人間理解に必要とされる、既成概念の根本的な省察、総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。【課題発見・分析・解決力】

■ 関心・意欲・態度

- 自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができる。【自己管理能力1】
- 「人間全般」や自分自身についての省察を深め、自らの持つ可能性を見出し、将来のキャリア構築に向けて積極的・主体的に準備行動ができる。【自己管理能力2】
- 人間の総合的な理解を通して得られた責任感、倫理観を自覚し、その深い理解をもって帰属する社会において積極的に行動できる。【市民としての社会的責任・倫理観】
- 各自が帰属する社会における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。【生涯学習力】
- 相互理解を深めるコミュニケーションを通じて、他者の協調を得ながら、共により良い社会を形成することができる。【コミュニケーション力】

^{※1}外国語学部、経済学部、文学部、法学部

^{※2}外国語学部、文学部

教育課程編成・実施方針

基盤教育の目標を達成するため、以下の方針に基づき、教育課程を編成し実施する。

「基盤教育科目」は、卒業後の生き方や社会での活躍を支える人間性・主体性・社会性の育成を目的として、「教養教育科目」「情報教育科目」「外国語教育科目」で構成する。各科目群の内容は以下のとおりとする。

■ 教養教育科目

主体性と社会性を備えた人間観を基軸とする「人間史のクローバー」を基本的枠組みとして、「ビジョン科目領域」「ライフ・スキル科目領域」「キャリア科目領域」「教養演習科目領域」「テーマ科目領域」「教職関連科目領域」で構成する。

□ ビジョン科目領域

既成概念を根本的に問い返すことによって、人間の総合的な理解につながるビジョンを提供する科目領域とする。課題分析・解決力、生涯学習力を形成するための科目を配置し、専任教員が担当する。

1年次配当科目から2単位、2年次配当科目から2単位以上を修得する。【外国語学部 経済学部 文学部 法学部】

□ ライフ・スキル科目領域

社会生活を送る上で基本となる課題分析・解決力、心身の健康、生涯学習力、コミュニケーション力を高めていくための科目領域である。選択必修科目5科目を配置し、2単位以上を修得する。【外国語学部 経済学部 文学部 法学部】
また、スポーツを通じた健康管理を目的とする選択科目2科目を配置する。

□ キャリア科目領域

将来働く上で必要となる課題分析・解決力、市民としての社会的責任・倫理観、コミュニケーション力などキャリア形成に向けて主体的に準備行動ができる力を育成するための科目領域である。自分自身を振り返りつつ、社会で働いている人たちをモデルとしながらどのような学生生活を送ればよいのかを学生自らが考えることを目的とし

て、選択必修科目6科目を配置し、2単位以上を修得する。[外国語学部 経済学部 文学部 法学部]

また、地域で活動するにあたっての考え方やマナー等を学びながら、実践活動の経験から学ぶことができるように選択科目6科目を配置する。

□ 教養演習科目領域

少人数・討論型の授業によって、人間の総合的理解、課題分析・解決力、生涯学習力を高めていく科目領域とする。1年次に基礎演習科目、2・3年次に演習科目を配置する。

□ テーマ科目領域

「自然環境と人間」「思想文化と人間」「地域社会と人間」「国際社会と人間」「歴史と人間」の5つの科目群で構成する。各科目群では、基本的な問題とテーマを設定し、問題を多角的に広く考察する視座、人間の総合的な理解、生涯学習力を獲得することを目的とした科目を1年次に配置する。

□ 教職関連科目領域

教員免許の取得を目指す学生が「教科に関する科目」として履修する科目を配置する。

■ 情報教育科目

(1) 情報社会に参加するための基礎的な知識・考え方・態度の習得

(2) 情報を活用する技能の習得

(3) 課題発見・解決力、情報発信力の育成

の3つを学習の柱とする科目群とし、情報に関する理論と実践を学ぶ科目を体系的に提供する。すなわち、1年次に「データ処理」、2年次に「情報表現」、3年次に「情報メディア演習」を配置する。「データ処理」を必修科目として2単位以上を修得する。[外国語学部 経済学部 文学部 法学部]

■ 外国語教育科目

「第一外国語(英語)科目」と「第二外国語科目」で構成する。

□ 第一外国語(英語)科目

聴解・読解とともにコミュニケーション・内容を重視した授業を通して、学生の実践的な英語力(4技能(聴く・読む・話す・書く))を総合的に向上させる。

1年次に英語Ⅰ～Ⅳ、2年次に英語Ⅴ～Ⅷを配置し、8単位を履修する。英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅴ、Ⅵは、日本語を第一言語とする教員が聴解と読解を中心に担当する。英語Ⅲ、Ⅳ、Ⅶ、Ⅷは、英語を第一言語とする教員が会話と作文を中心に担当する。クラス編成は到達度別に行い、それぞれの到達度に応じた指導を行う。

英語Ⅰ～Ⅷに加えて、より高度な英語力を養成するため、英語Ⅸ～Ⅻを選択科目として3年次に配置する。

英語Ⅰ～Ⅷを必修科目として8単位修得する。[外国語学部 経済学部 人間関係学科 法学部]

英語Ⅰ～Ⅳを必修科目として4単位、Ⅴ～Ⅷを選択必修科目として4単位修得する。[比較文化学科]

□ 第二外国語科目

基本的なコミュニケーションのための言語習得を目標に、中国語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、朝鮮語を学習する。

各言語とも、1年次には、4技能の基礎を習得する初級科目Ⅰ～Ⅳを、2年次には、自分の考えを口頭・文章表現での確に伝え日常的なニーズを満たすことが出来る程度の読解・聴解力を習得する中級科目Ⅴ～Ⅷを選択科目として配置する。

中国語、朝鮮語については、より高度な読解力・作文力を養成し、総合的な会話表現力を習得するための上級科目を選択科目として3年次に配置する。

各言語のⅠ、Ⅱ、Ⅴ、Ⅵでは文法を中心に学習し、Ⅲ、Ⅳ、Ⅶ、Ⅷではオーラル表現を習得する。

言語を揃えてⅠ～Ⅳを選択必修科目として4単位修得する。[英米学科 人間関係学科]

Ⅰ～Ⅳについては、言語を揃えて選択必修科目として4単位修得する。Ⅴ～Ⅷについては、上記6カ国語に英語を加えた7カ国語の中から1カ国語を選択必修科目として4単位修得する。[比較文化学科]

中国語または朝鮮語Ⅰ～Ⅷを選択必修科目として8単位修得する。[国際関係学科]